

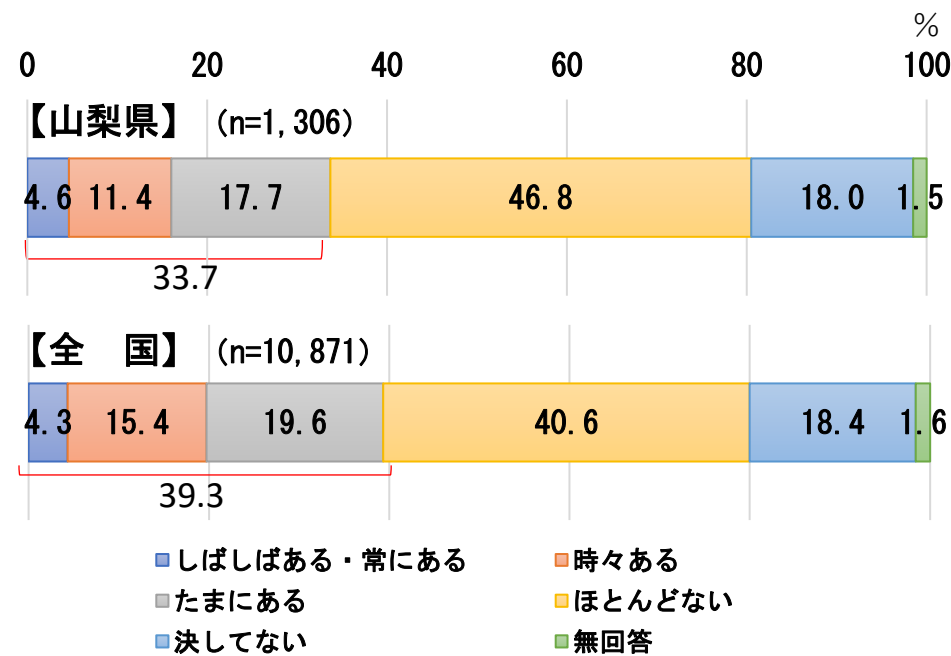
孤独・孤立実態調査結果（概要）

県民

- ・回答者の**3人に1人が孤独**を感じている。
- ・困ったときに**頼れる人がいない人は7割以上が孤独**を感じている。
- ・不安や悩みを抱えながらも**支援の受け方がわからない(20.6%)**などの理由で行政やNPO等の**支援を受けていない人**がいる。
- ・本県は全国と概ね同様の傾向であるが、**孤独感や不安や悩みがある人の割合が低く、他者へのサポート意識が高い**などの特徴がみられる。

①孤独を感じている人

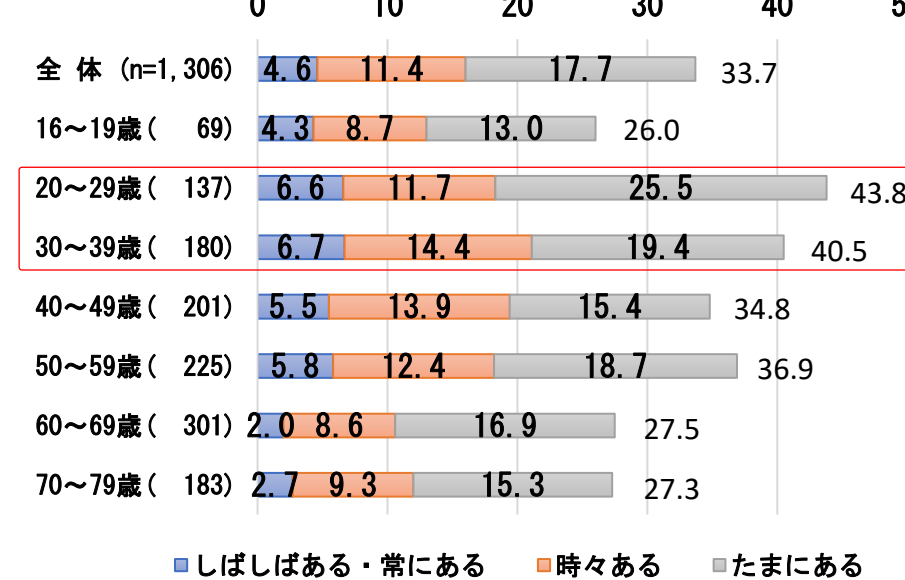
33.7%の人が孤独を感じているが、全国と比較すると若干低い。



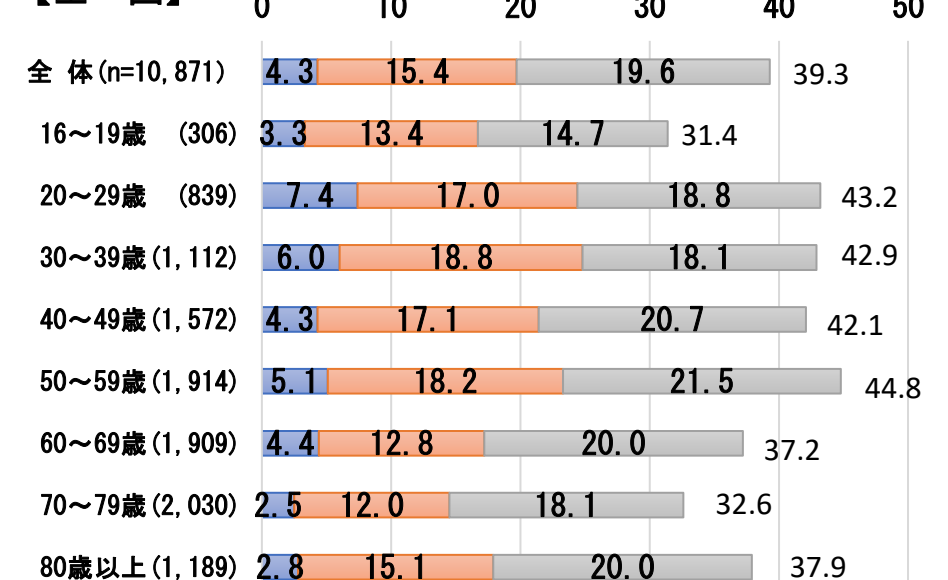
②年齢階級別の孤独感

20～30代は4割を超えているがどの年代も孤独を感じている人は一定数いる。
全国は20～50代が4割を超えている。

【山梨県】

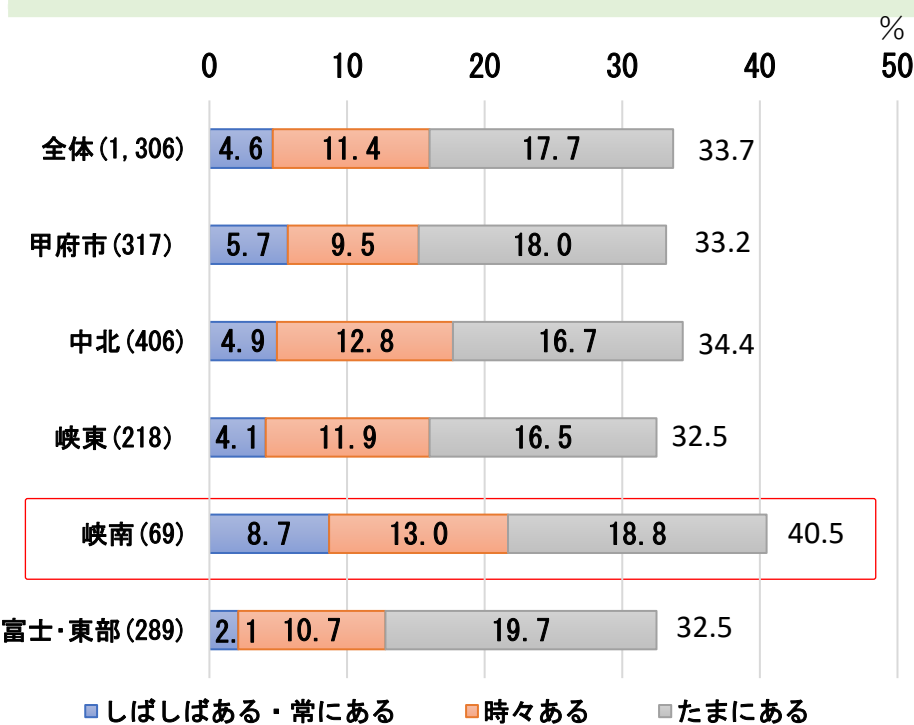


【全 国】



③居住地（圏域）別の孤独感

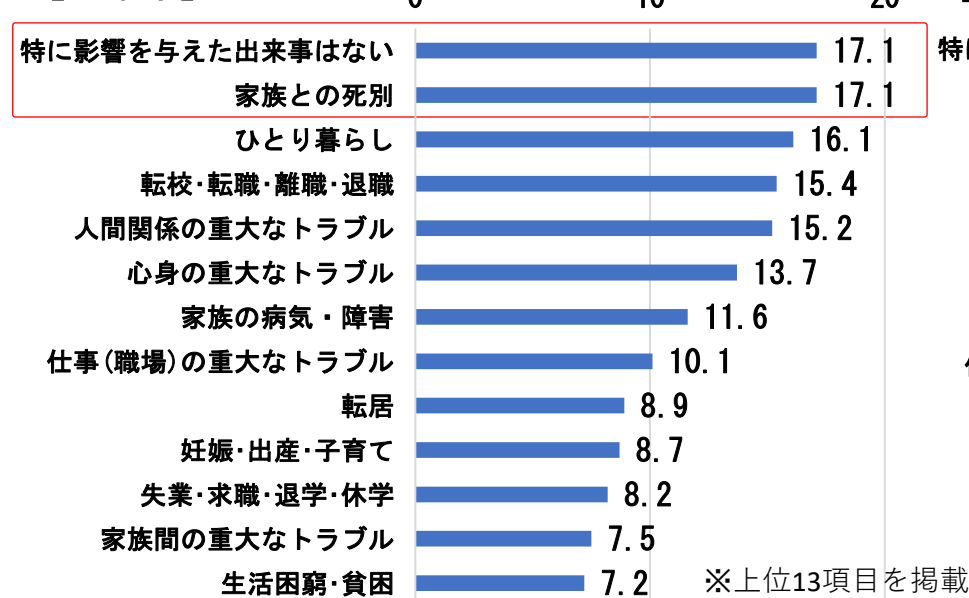
峡南地域が最も高く4割を超えている。



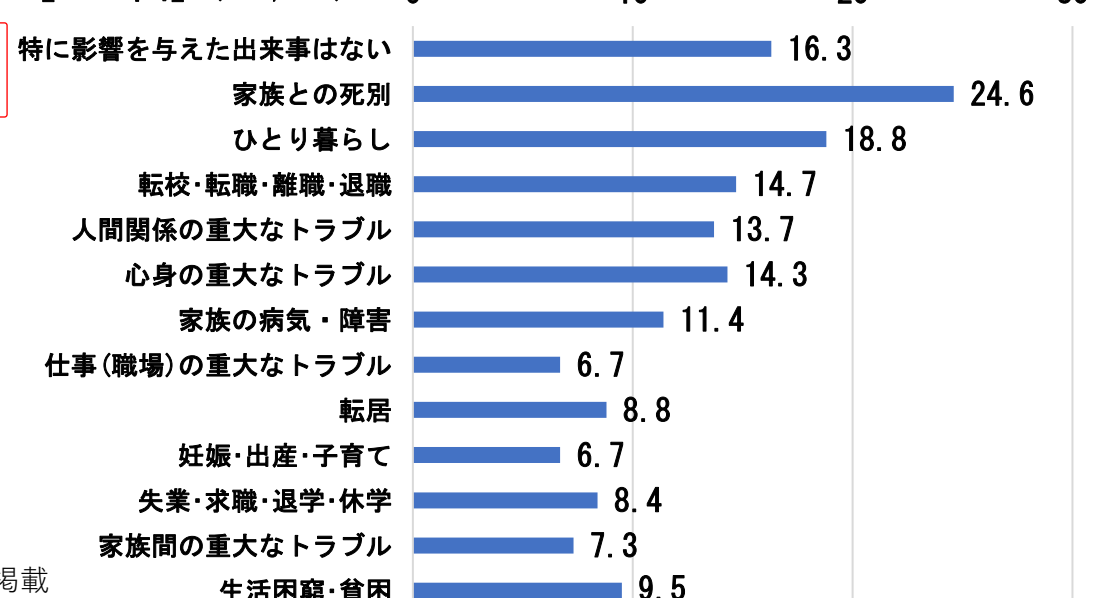
④孤独感に影響を与えたと思う出来事（複数回答）

影響を与えた出来事は、「特にない」「家族との死別」などで高い。全国でも同様の傾向にあるが、「家族との死別」が最も高くなっている。

【山梨県】 (n=415)



【全 国】 (n=4,183)



調査名：山梨県人々のつながりに関する基礎調査（期間：令和6年10月10日～28日）

調査目的：本県における孤独・孤立の実態を把握し、今後の県及び関係機関における関連諸施策を効果的に展開するための基礎資料を得る。

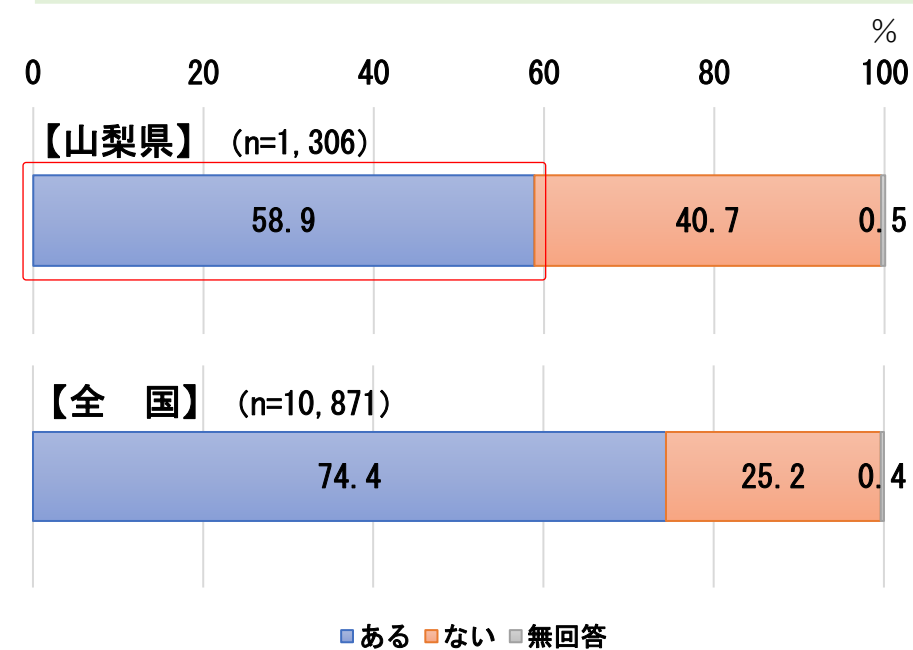
※【孤独・孤立対策推進法】孤独を覚えることにより、又は社会から孤立していることにより心身に有害な影響を受けている状態にある者等への対策を推進

回答数：①県民1,306/4,000件（回答率32.7%） ②県内支援機関・団体等247/500件（回答率49.4%）

内閣府（全国）調査：令和6年人々のつながりに関する基礎調査 調査期日：令和6年12月1日 公表：令和7年4月25日

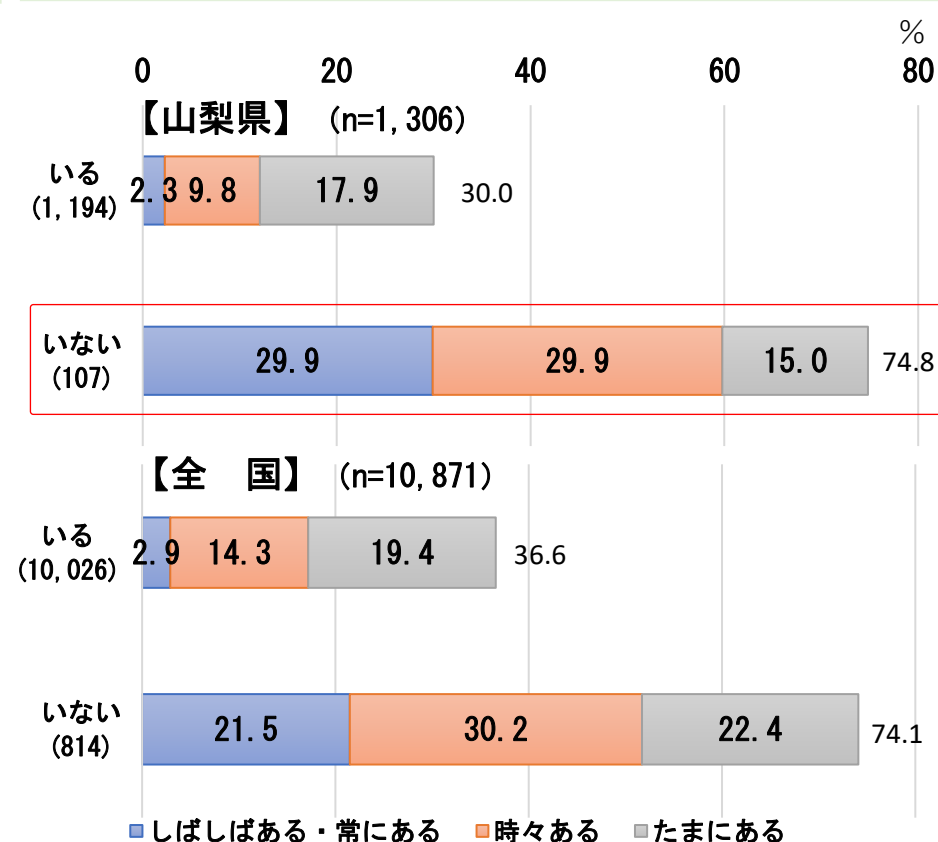
⑤不安や悩みの有無

不安や悩みがある人(58.9%)は、全国(74.4%)と比較すると低い。



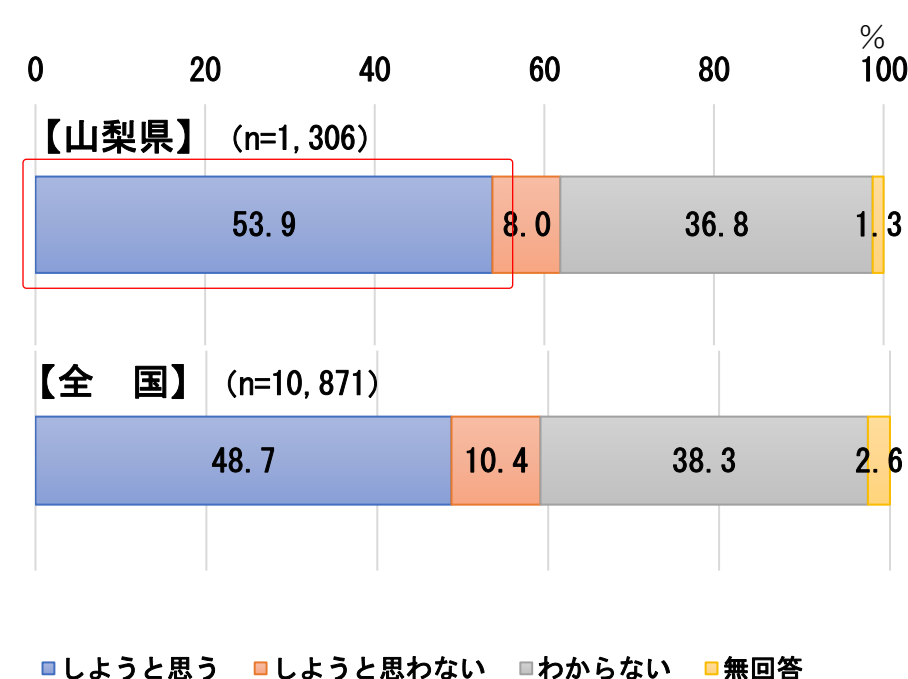
⑥困ったときに頼れる人の有無別の孤独感

困った時に頼れる人がいない人のうち、7割以上が孤独を感じている。全国でも同様の傾向。



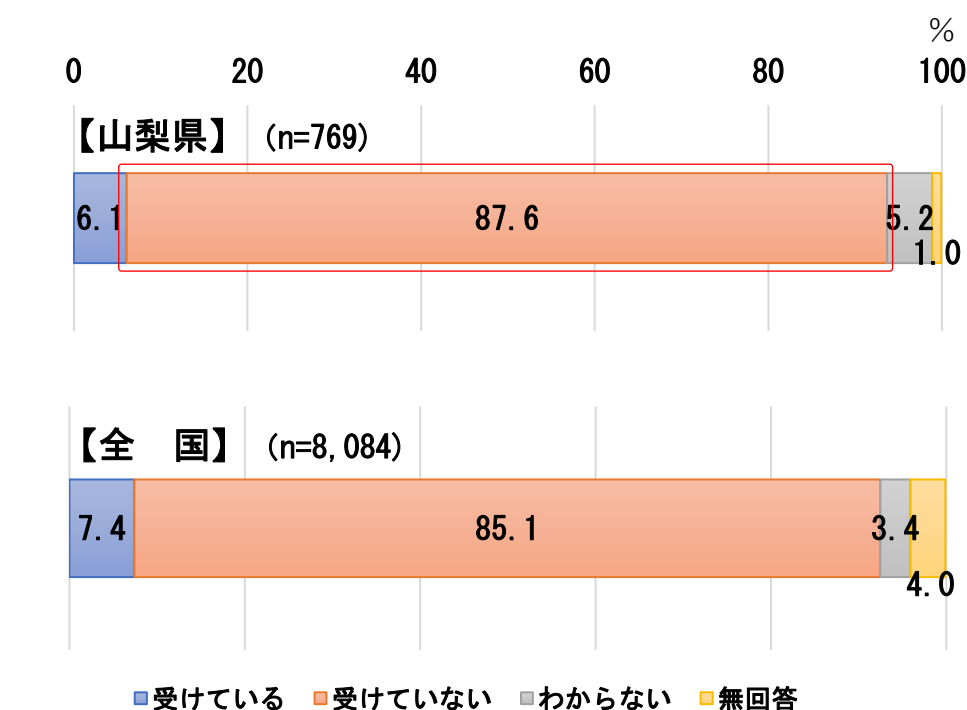
⑦他者へのサポート意識

他者への手助けをしようと思う人(53.9%)は、全国(48.7%)と比較すると高い。



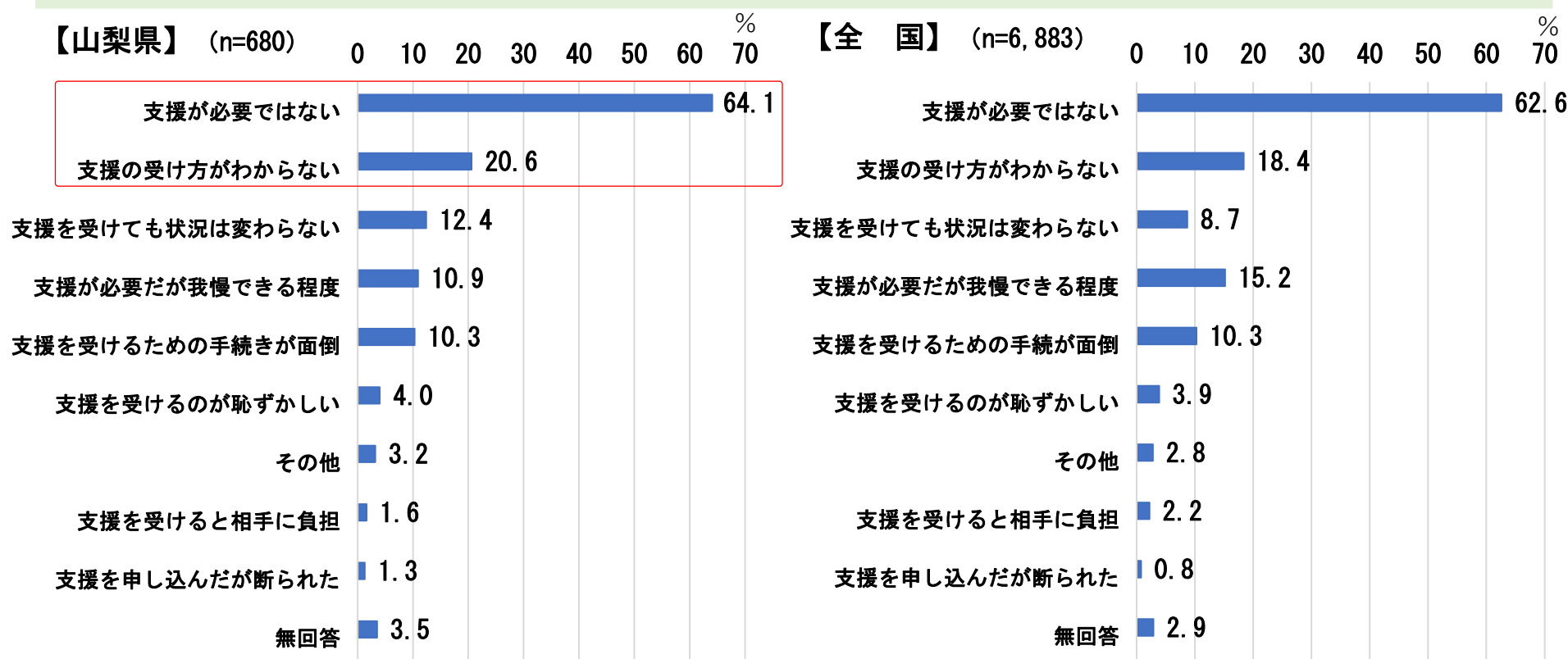
⑧不安や悩みに対する行政、NPO等からの支援状況

8割以上が行政、NPO等からの支援を受けていない。全国でも同様の傾向。



⑨左記⑧について支援を受けていない理由（複数回答）

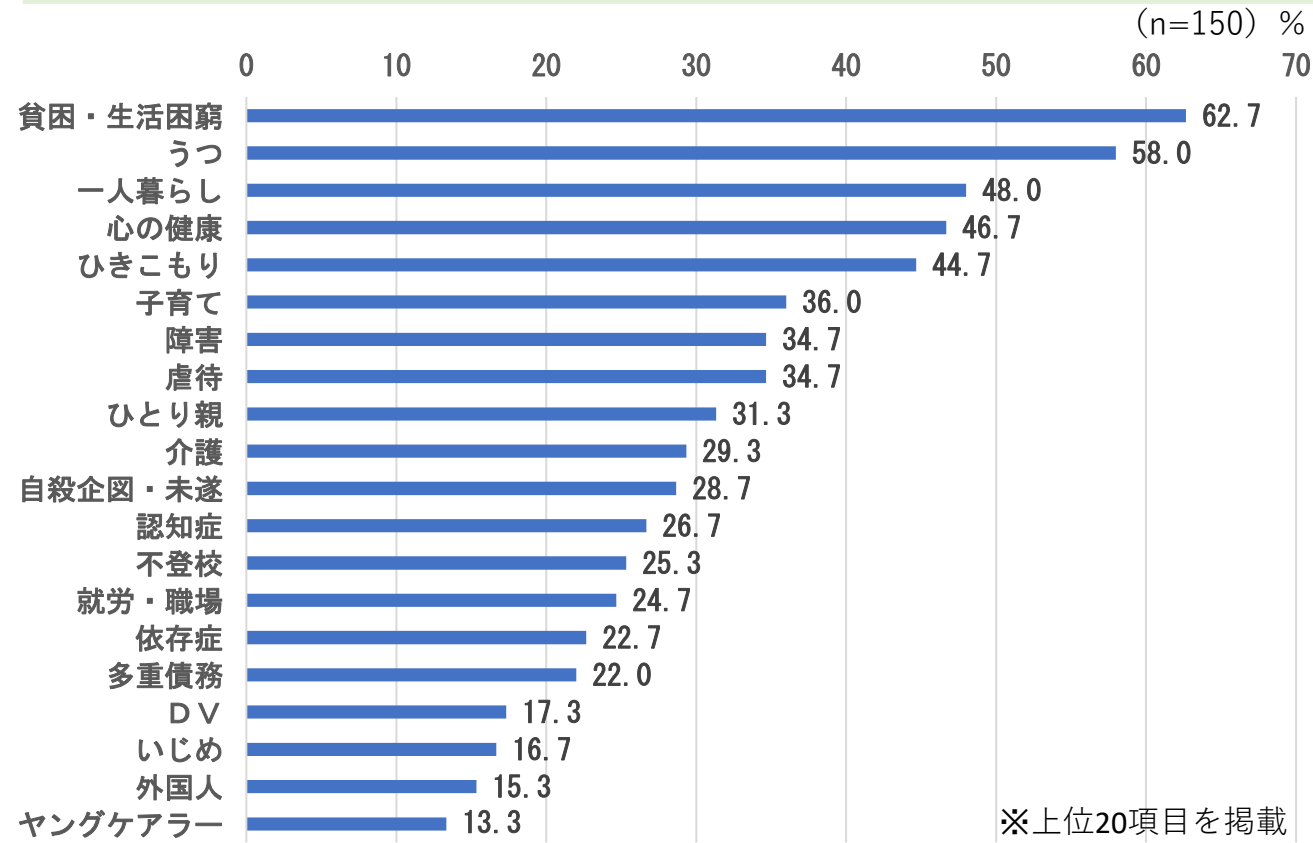
「支援が必要ではない」が最も多いが、「支援の受け方がわからない」が約2割いる。全国でも同様の傾向。



- ・当事者が抱える課題は様々であり、複雑化、複合化している。
- ・相談先がわからず悩みや課題が解決しない人が一定数存在する。
- ・当事者等の支援において地域社会の理解促進や支援団体間との連携強化が必要と考えている団体が多い。

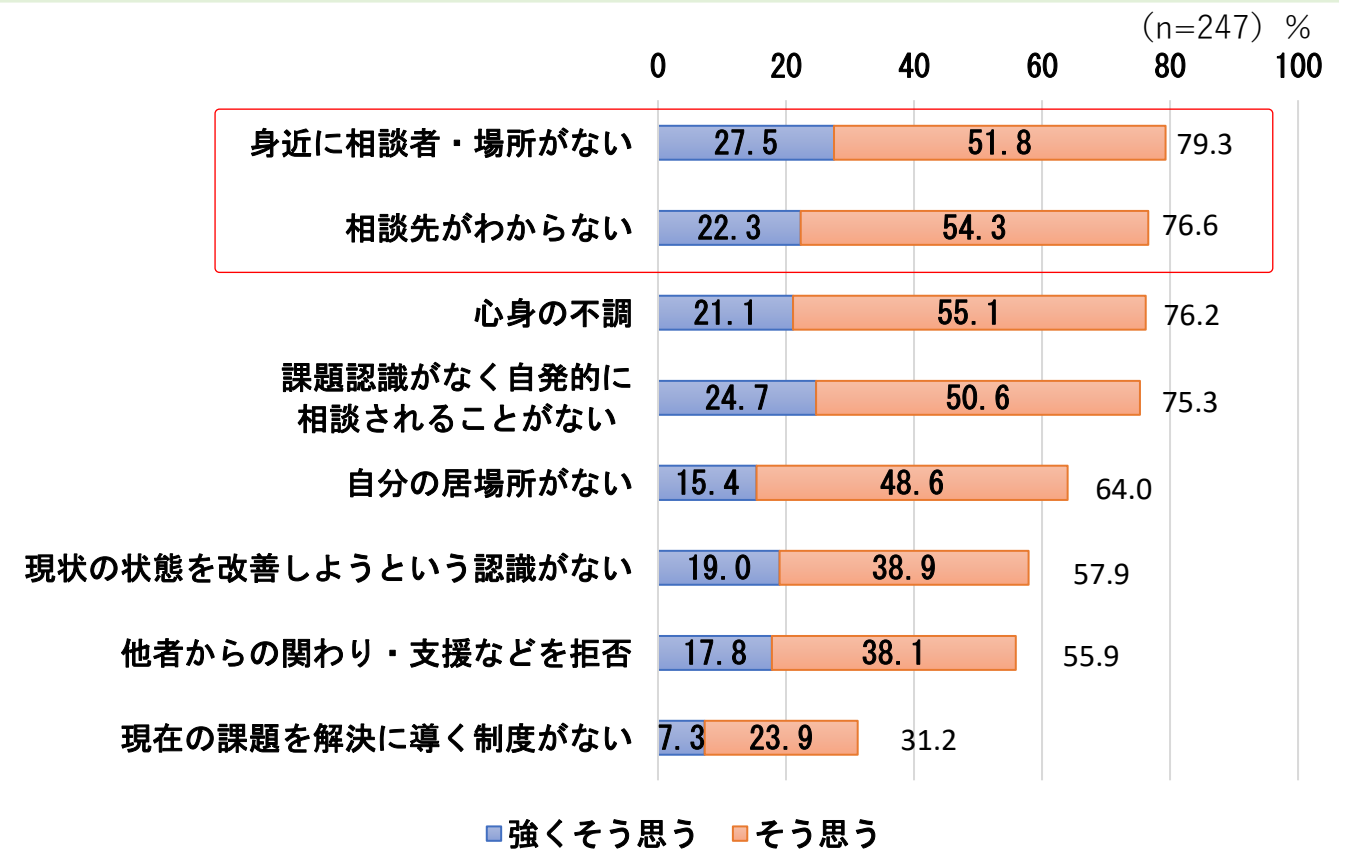
①孤独・孤立状態にある当事者が抱えている課題（複数回答）

貧困・生活困窮、うつ、一人暮らしなど課題は様々であり、一人で複数の課題を抱える当事者が存在。



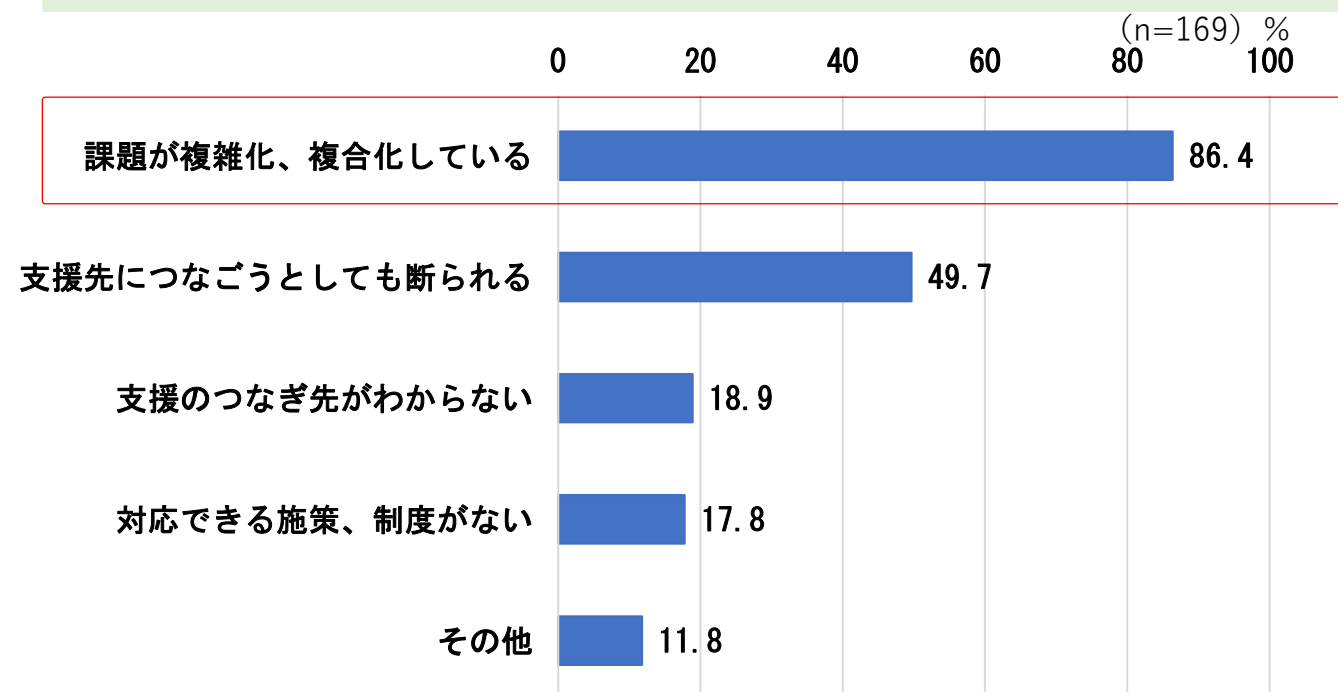
②当事者の抱える悩みや課題が解決しない要因（複数回答）

当事者の「身近に相談者がいない」「相談先がわからない」ため、悩み等が解決しないと考える支援団体が約8割存在。



③当事者やその家族への対応で苦慮していること（複数回答）

当事者が抱える課題の複雑化、複合化に苦慮している支援団体が多い。



④左記③の改善に向けて必要と思うこと（複数回答）

社会や地域における理解促進、支援団体間との連携強化が必要。

